平成 19年 3月期　　中間決算短信(連結)

平成18年11月 6日

上　場　会　社　名　　**住友林業株式会社**　　上場取引所　東 大

コード番号　1911　　本社所在都道府県

(ＵＲＬ　http://sfc.jp/)　　東京都

代　　表　　者　　役職名　取締役社長　　氏名　矢野　龍

問合せ先責任者　　役職名　取締役経営企画部長　　氏名　早野　均　　TEL (03) 6730 - 3512

中間決算取締役会開催日　平成18年11月 6日

米国会計基準採用の有無　　無

１．18年 9月中間期の連結業績(平成 18年 4月 1日 ～ 平成 18年 9月 30日)

(1)連結経営成績　　（百万円未満四捨五入）

	売上高		営業利益		経常利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
18年 9月中間期	421,989	24.7	4,879	277.5	5,437	134.0
17年 9月中間期	338,376	△ 0.0	1,292	△ 75.1	2,324	△ 52.7
18年 3月期	791,128		15,446		16,800	

	中間(当期)純利益		１株当たり中間(当期)純利益	潜在株式調整後１株当たり中間(当期)純利益
	百万円	%	円 銭	円 銭
18年 9月中間期	2,874	103.5	16 21	-
17年 9月中間期	1,412	△ 33.0	8 03	-
18年 3月期	10,842		61 28	-

(注) ①持分法投資損益　18年 9月中間期　99百万円　17年 9月中間期　144百万円　18年 3月期　327百万円

②期中平均株式数(連結) 18年 9月中間期　177,317,616 株　17年 9月中間期　175,923,026 株　18年 3月期　175,891,228 株

③会計処理の方法の変更　無

④売上高、営業利益、経常利益、中間(当期）純利益におけるパーセント表示は、対前年中間期増減率

(2)連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	１株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
18年 9月中間期	483,734	174,259	35.8	977 35
17年 9月中間期	411,783	157,746	38.3	896 84
18年 3月期	464,193	175,206	37.7	996 03

(注)期末発行済株式数(連結)　18年 9月中間期　177,294,358 株　17年 9月中間期　175,890,103 株　18年 3月期　175,842,252 株

(3)連結キャッシュ･フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
18年 9月中間期	1,531	△ 1,865	2,514	51,759
17年 9月中間期	2,399	△ 4,416	△ 5,909	48,040
18年 3月期	16,626	△ 8,998	△14,039	49,628

(4)連結範囲及び持分法の適用に関する事項

連結子会社数　43社　持分法適用非連結子会社数　- 社　持分法適用関連会社数　7社

(5)連結範囲及び持分法の適用の異動状況

連結 (新規)　- 社　(除外)　4社　持分法 (新規)　1社　(除外)　- 社

２．19年 3月期の連結業績予想(平成 18年 4月 1日 ～ 平成 19年 3月 31日)

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
通　　期	891,000	17,000	9,000

（参考）１株当たり予想当期純利益(通期)　50円 76銭

※上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想と異なる可能性があります。なお、上記業績予想に関する事項は、添付資料の2～4、11ページをご参照ください。

【 連結損益計算書 】

(単位:百万円)

	H17/9中間期		H18/9中間期		前年同期差	増減率	H18/3期		H19/3期予想		前年同期差	増減率
木材･建材事業		165,666		248,347	＋82,681	＋49.9%		412,182		505,000	＋92,818	＋22.5%
住宅及び住宅関連事業		179,190		180,974	＋1,784	＋1.0%		393,868		406,000	＋12,132	＋3.1%
その他		6,368		7,210	＋842	＋13.2%		13,549		14,000	＋451	＋3.3%
消去又は全社		△12,847		△14,542	△1,695	－		△28,471		△34,000	△5,529	－
売上高		338,376		421,989	＋83,613	＋24.7%		791,128		891,000	＋99,872	＋12.6%
売上総利益	16.7%	56,506	15.2%	64,342	＋7,837	＋13.9%	16.2%	127,853	15.8%	140,500	＋12,647	＋9.9%
販売費及び一般管理費		55,213		59,463	＋4,250	＋7.7%		112,407		124,000	＋11,593	＋10.3%
木材･建材事業	0.5%	853	1.3%	3,289	＋2,435	＋285.4%	0.7%	2,806	1.1%	5,800	＋2,994	＋106.7%
住宅及び住宅関連事業	1.2%	2,123	1.9%	3,450	＋1,328	＋62.5%	4.2%	16,370	3.9%	15,900	△470	△2.9%
その他	7.1%	451	6.3%	455	＋4	＋0.8%	6.2%	841	4.3%	600	△241	△28.7%
消去又は全社		△2,135		△2,314	△179	－		△4,571		△5,800	△1,229	－
営業利益	0.4%	1,292	1.2%	4,879	＋3,587	＋277.5%	2.0%	15,446	1.9%	16,500	＋1,054	＋6.8%
営業外収益		1,880		1,912	＋32	＋1.7%		3,750		3,000	△750	△20.0%
営業外費用		849		1,354	＋506	＋59.6%		2,396		2,500	＋104	＋4.3%
営業外損益		1,031		558	△474	△45.9%		1,353		500	△853	△63.1%
経常利益	0.7%	2,324	1.3%	5,437	＋3,113	＋134.0%	2.1%	16,800	1.9%	17,000	＋200	＋1.2%
特別利益		298		673	＋375	＋125.9%		363		700	＋337	＋92.8%
特別損失		137		468	＋331	＋241.7%		1,128		1,200	＋72	＋6.4%
特別損益		161		205	＋44	＋27.2%		△765		△500	＋265	－
当期純利益	0.4%	1,412	0.7%	2,874	＋1,462	＋103.5%	1.4%	10,842	1.0%	9,000	△1,842	△17.0%

【 個別損益計算書 】

(単位:百万円)

	H17/9中間期		H18/9中間期		前年同期差	増減率	H18/3期		H19/3期予想		前年同期差	増減率
木材		45,132		55,157	＋10,025	＋22.2%		90,867		109,000	＋18,133	＋20.0%
建材		94,391		152,671	＋58,280	＋61.7%		192,569		313,000	＋120,431	＋62.5%
木材･建材部門		139,523		207,829	＋68,305	＋49.0%		283,437		422,000	＋138,563	＋48.9%
戸建住宅		134,671		136,513	＋1,842	＋1.4%		298,830		311,000	＋12,170	＋4.1%
集合住宅		2,160		2,961	＋801	＋37.1%		13,043		15,000	＋1,957	＋15.0%
住宅部門		136,831		139,474	＋2,642	＋1.9%		311,873		326,000	＋14,127	＋4.5%
その他		329		515	＋186	＋56.5%		683		1,000	＋317	＋46.4%
売上高		276,683		347,817	＋71,134	＋25.7%		595,993		749,000	＋153,007	＋25.7%
木材･建材部門	3.3%	4,611	3.8%	7,877	＋3,266	＋70.8%	3.4%	9,623	3.3%	13,800	＋4,177	＋43.4%
住宅部門	25.6%	35,043	25.6%	35,734	＋690	＋2.0%	25.1%	78,395	25.1%	81,700	＋3,305	＋4.2%
その他	99.8%	328	66.3%	341	＋13	＋4.0%	97.4%	665	40.0%	400	△265	△39.9%
売上総利益	14.5%	39,982	12.6%	43,952	＋3,970	＋9.9%	14.9%	88,683	12.8%	95,900	＋7,217	＋8.1%
人件費		20,796		21,135	＋339	＋1.6%		38,419		43,900	＋5,481	＋14.3%
広告宣伝費		2,633		2,877	＋245	＋9.3%		6,096		7,100	＋1,004	＋16.5%
その他販管費		16,112		16,278	＋166	＋1.0%		32,669		33,900	＋1,231	＋3.8%
販売費及び一般管理費		39,541		40,291	＋749	＋1.9%		77,184		84,900	＋7,716	＋10.0%
木材･建材部門	0.6%	768	1.5%	3,081	＋2,313	＋301.3%	0.7%	2,004	0.9%	3,600	＋1,596	＋79.6%
住宅部門	1.3%	1,802	1.9%	2,634	＋832	＋46.1%	4.4%	13,711	4.0%	12,900	△811	△5.9%
その他	23.2%	76	17.8%	92	＋15	＋20.3%	26.3%	180	△10.0%	△100	△280	－
本社		△2,205		△2,145	＋60	－		△4,395		△5,400	△1,005	－
営業利益	0.2%	441	1.1%	3,662	＋3,220	＋730.0%	1.9%	11,499	1.5%	11,000	△499	△4.3%
営業外収益		1,872		2,400	＋529	＋28.3%		3,187		3,000	△187	△5.9%
営業外費用		286		645	＋359	＋125.3%		737		1,000	＋263	＋35.6%
営業外損益		1,585		1,756	＋170	＋10.7%		2,449		2,000	△449	△18.3%
経常利益	0.7%	2,027	1.6%	5,417	＋3,391	＋167.3%	2.3%	13,948	1.7%	13,000	△948	△6.8%
特別利益		86		280	＋194	＋225.4%		216		500	＋284	＋131.2%
特別損失		158		453	＋295	＋187.3%		949		500	△449	△47.3%
特別損益		△72		△173	△102	－		△733		－	＋733	－
当期純利益	0.5%	1,357	0.9%	3,085	＋1,729	＋127.5%	0.4%	2,652	1.0%	7,500	＋4,848	＋182.8%

※ 左肩パーセンテージは利益率を示しております。

【 住宅事業の概況 】

1．受注の状況･販売の状況

(単位：百万円)

①受注金額（解約引後）	H17/9中間期	H18/9中間期	前年同期差	増減率	H18/3期	H19/3期予想	前年同期差	増減率
住友林業	145,475	155,253	＋9,778	＋6.7%	274,958	306,000	＋31,042	＋11.3%
住友林業ﾂｰﾊﾞｲﾌｫｰ	5,670	6,534	＋865	＋15.2%	11,561	13,500	＋1,939	＋16.8%
戸建注文住宅 計	151,145	161,788	＋10,643	＋7.0%	286,519	319,500	＋32,981	＋11.5%
ＲＣ造 ﾏﾝｼｮﾝ	4,012	3,845	△167	△4.2%	8,518	9,500	＋982	＋11.5%
木造 ｱﾊﾟｰﾄ	2,662	2,938	＋276	＋10.4%	5,215	8,500	＋3,285	＋63.0%
集合住宅 計	6,674	6,783	＋109	＋1.6%	13,733	18,000	＋4,267	＋31.1%

(単位：棟、集合住宅は戸)

②受注棟数（解約引後）	H17/9中間期	H18/9中間期	前年同期差	増減率	H18/3期	H19/3期予想	前年同期差	増減率
住友林業	4,845	4,962	＋117	＋2.4%	8,890	9,800	＋910	＋10.2%
住友林業ﾂｰﾊﾞｲﾌｫｰ	190	197	＋7	＋3.7%	361	420	＋59	＋16.3%
戸建注文住宅 計	5,035	5,159	＋124	＋2.5%	9,251	10,220	＋969	＋10.5%
ＲＣ造 ﾏﾝｼｮﾝ （戸数）	327	366	＋39	＋11.9%	635	950	＋315	＋49.6%
木造 ｱﾊﾟｰﾄ （戸数）	328	364	＋36	＋11.0%	653	950	＋297	＋45.5%
集合住宅 計	655	730	＋75	＋11.5%	1,288	1,900	＋612	＋47.5%

(単位：百万円)

③販売金額	H17/9中間期	H18/9中間期	前年同期差	増減率	H18/3期	H19/3期予想	前年同期差	増減率
住友林業	127,195	127,273	＋78	＋0.1%	280,312	290,000	＋9,688	＋3.5%
住友林業ﾂｰﾊﾞｲﾌｫｰ	3,751	4,370	＋619	＋16.5%	10,222	11,700	＋1,478	＋14.5%
戸建注文住宅 計	130,946	131,643	＋698	＋0.5%	290,534	301,700	＋11,166	＋3.8%
分譲住宅 ※国内のみ	403	574	＋171	＋42.4%	1,421	1,900	＋479	＋33.7%
戸建注文住宅 計	131,349	132,217	＋868	＋0.7%	291,955	303,600	＋11,645	＋4.0%
ＲＣ造 ﾏﾝｼｮﾝ	983	1,148	＋165	＋16.8%	6,670	8,400	＋1,730	＋25.9%
木造 ｱﾊﾟｰﾄ	1,173	1,457	＋285	＋24.3%	4,822	6,100	＋1,278	＋26.5%
集合住宅 計	2,156	2,606	＋450	＋20.9%	11,492	14,500	＋3,008	＋26.2%

(単位：棟、集合住宅は戸)

④販売棟数	H17/9中間期	H18/9中間期	前年同期差	増減率	H18/3期	H19/3期予想	前年同期差	増減率
住友林業	4,301	4,155	△146	△3.4%	9,401	9,300	△101	△1.1%
住友林業ﾂｰﾊﾞｲﾌｫｰ	125	135	＋10	＋8.0%	338	370	＋32	＋9.5%
戸建注文住宅 計	4,426	4,290	△136	△3.1%	9,739	9,670	△69	△0.7%
分譲住宅 ※国内のみ	19	28	＋9	＋47.4%	68	80	＋12	＋17.6%
戸建注文住宅 計	4,445	4,318	△127	△2.9%	9,807	9,750	△57	△0.6%
ＲＣ造 ﾏﾝｼｮﾝ （戸数）	67	83	＋16	＋23.9%	461	760	＋299	＋64.9%
木造 ｱﾊﾟｰﾄ （戸数）	144	166	＋22	＋15.3%	621	750	＋129	＋20.8%
集合住宅 計	211	249	＋38	＋18.0%	1,082	1,510	＋428	＋39.6%

2．（住友林業）戸建注文住宅事業の状況

	H17/9中間期	H18/9中間期	前年同期差	増減率	H18/3期	H19/3期予想	前年同期差	増減率
受注金額(百万円)	145,475	155,253	＋9,778	＋6.7%	274,958	306,000	＋31,042	＋11.3%
受注棟数	4,845	4,962	＋117	＋2.4%	8,890	9,800	＋910	＋10.2%
1棟あたり単価(百万円)	30.0	31.3	＋1.3	＋4.2%	30.9	31.2	＋0.3	＋1.0%
平均坪数	42.2	42.4	＋0.2	＋0.4%	42.5	－	－	－
※ 坪単価(千円)	712	739	＋27	＋3.8%	727	－	－	－
販売金額(百万円)	127,195	127,273	＋78	＋0.1%	280,312	290,000	＋9,688	＋3.5%
販売棟数	4,301	4,155	△146	△3.4%	9,401	9,300	△101	△1.1%
1棟あたり単価(百万円)	29.6	30.6	＋1.1	＋3.6%	29.8	31.2	＋1.4	＋4.6%
平均坪数	43.5	43.3	△0.2	△0.5%	43.4	－	－	－
坪単価(千円)	680	707	＋28	＋4.1%	687	－	－	－
期末受注残金額（百万円）	278,856	283,202	＋4,346	＋1.6%	255,222	271,222	＋16,000	＋6.3%
期末受注残棟数	9,521	9,273	△248	△2.6%	8,466	8,966	＋500	＋5.9%
営業社員数（人）	1,537	1,575	＋38	＋2.5%	1,518	1,585	＋67	＋4.4%
営業拠点数	97ヵ所	89ヵ所	△ 8ヵ所	△8.2%	94ヵ所	89ヵ所	△ 5ヵ所	△5.3%
展示場数	313ヵ所	325ヵ所	＋12ヵ所	＋3.8%	324ヵ所	323ヵ所	△ 1ヵ所	△0.3%

※ 解約引後の受注の状況を記載。

【 主要関係会社の状況 】

(単位:百万円)

会社名 (本社所在地)	設立時期	資本金	出資比率 ※1	決算期	損益計算書				貸借対照表	
					売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	総資産	純資産
住友林業ﾂｰﾊﾞｲﾌｫｰ㈱ (東京都中央区)	S47/10	100	100.0%	H17/9中間期	3,959	△543	△492	△496	1,881	△927
				H18/9中間期	4,852	△262	△231	△236	3,340	△1,067
				H18/3期	10,799	△487	△394	△400	3,090	△831
				H19/3期 (予想)	12,800	50	60	50	―	―
住友林業ｸﾚｽﾄ㈱ (東京都千代田区)	H13/4	800	100.0%	H17/9中間期	12,629	238	211	589	15,455	3,329
				H18/9中間期	14,285	142	105	△183	18,316	3,026
				H18/3期	25,877	251	187	596	16,906	3,336
				H19/3期 (予想)	28,200	500	420	600	―	―
住友林業ﾎｰﾑｻｰﾋﾞｽ㈱ (東京都渋谷区)	S39/9	400	100.0%	H17/9中間期	3,236	15	9	△6	7,956	508
				H18/9中間期	3,667	163	154	78	3,466	744
				H18/3期	6,952	423	415	216	8,171	730
				H19/3期 (予想)	7,800	550	530	270	―	―
住友林業緑化㈱ (東京都中野区)	S52/4	200	100.0%	H17/9中間期	11,764	26	31	9	8,100	2,546
				H18/9中間期	12,525	49	57	26	8,401	2,697
				H18/3期	25,080	485	488	266	8,830	2,805
				H19/3期 (予想)	26,600	390	410	250	―	―
住友林業ﾎｰﾑﾃｯｸ㈱ (東京都千代田区)	S63/10	100	100.0%	H17/9中間期	11,702	67	76	40	8,918	1,845
				H18/9中間期	12,719	120	134	80	9,988	1,966
				H18/3期	23,712	195	205	115	8,820	1,920
				H19/3期 (予想)	25,700	340	350	210	―	―
ｽﾐﾘﾝ建設㈱ (東京都千代田区) ※2	H11/12	75	100.0%	H17/9中間期	28,525	211	274	151	25,370	2,232
				H18/9中間期	29,536	134	184	87	27,286	2,384
				H18/3期	63,649	515	585	309	22,462	2,389
				H19/3期 (予想)	68,500	730	780	470	―	―
㈱ｻﾝ・ｽﾃｯﾌﾟ (東京都新宿区)	S60/3	150	63.0%	H17/9中間期	12,209	79	101	51	9,521	998
				H18/9中間期	12,769	153	214	142	9,507	1,159
				H18/3期	24,963	281	312	165	10,027	1,238
				H19/3期 (予想)	25,700	400	460	280	―	―
P.T.Kutai Timber Indonesia (Jakarta, Indonesia) ※3	S45/9	15,000 (千US$)	99.7%	H17/6中間期	3,443	105	84	59	3,835	1,196
				H18/6中間期	3,890	△176	△245	△245	6,377	2,009
				H17/12期	6,597	△56	△167	△126	5,967	2,312
				H18/12期 (予想)	9,100	170	10	10	―	―
Alpine MDF Industries Pty Ltd. (Wangaratta, Victoria, Australia) ※4	H6/5	62,474 (千AU$)	(100.0%)	H17/6中間期	2,153	121	39	39	6,259	2,794
				H18/6中間期	2,093	△5	△87	△89	6,406	2,752
				H17/12期	4,366	84	△72	△72	6,504	2,837
				H18/12期 (予想)	4,800	170	△20	△20	―	―
Nelson Pine Industries Ltd. (Richmond, Nelson, New Zealand) ※5	S59/10	38,000 (千NZ$)	(100.0%)	H17/6中間期	5,721	△265	△120	△80	17,751	9,869
				H18/6中間期	5,983	303	85	57	16,574	9,840
				H17/12期	12,629	231	83	23	17,571	10,184
				H18/12期 (予想)	11,800	1,190	820	540	―	―

※1 ( ) 数字は、間接出資割合。

※2 ｽﾐﾘﾝ建設㈱は、平成18年10月1日付で「住友林業ﾎｰﾑｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ㈱」に商号変更。

※3、※4、※5 海外関係会社は以下のレートで円換算しております。

	※3 US$	※4 AU$	※5 NZ$
H17/6期	106.05	81.93	75.95
H18/6期	115.63	85.90	74.51
H17/12期	110.17	83.91	77.56
H18/12期 (予想)	115.82	86.59	74.27

企業集団の状況

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社、子会社 43社及び関連会社 7社で構成され、山林事業を根幹として、木材・建材・資材の仕入・製造・加工・販売、並びに注文住宅等の建築請負・設計・施工・監理、及びそれらに関連する事業活動を行っております。

事業内容と当社グループの当該事業における位置付けは次のとおりであります。

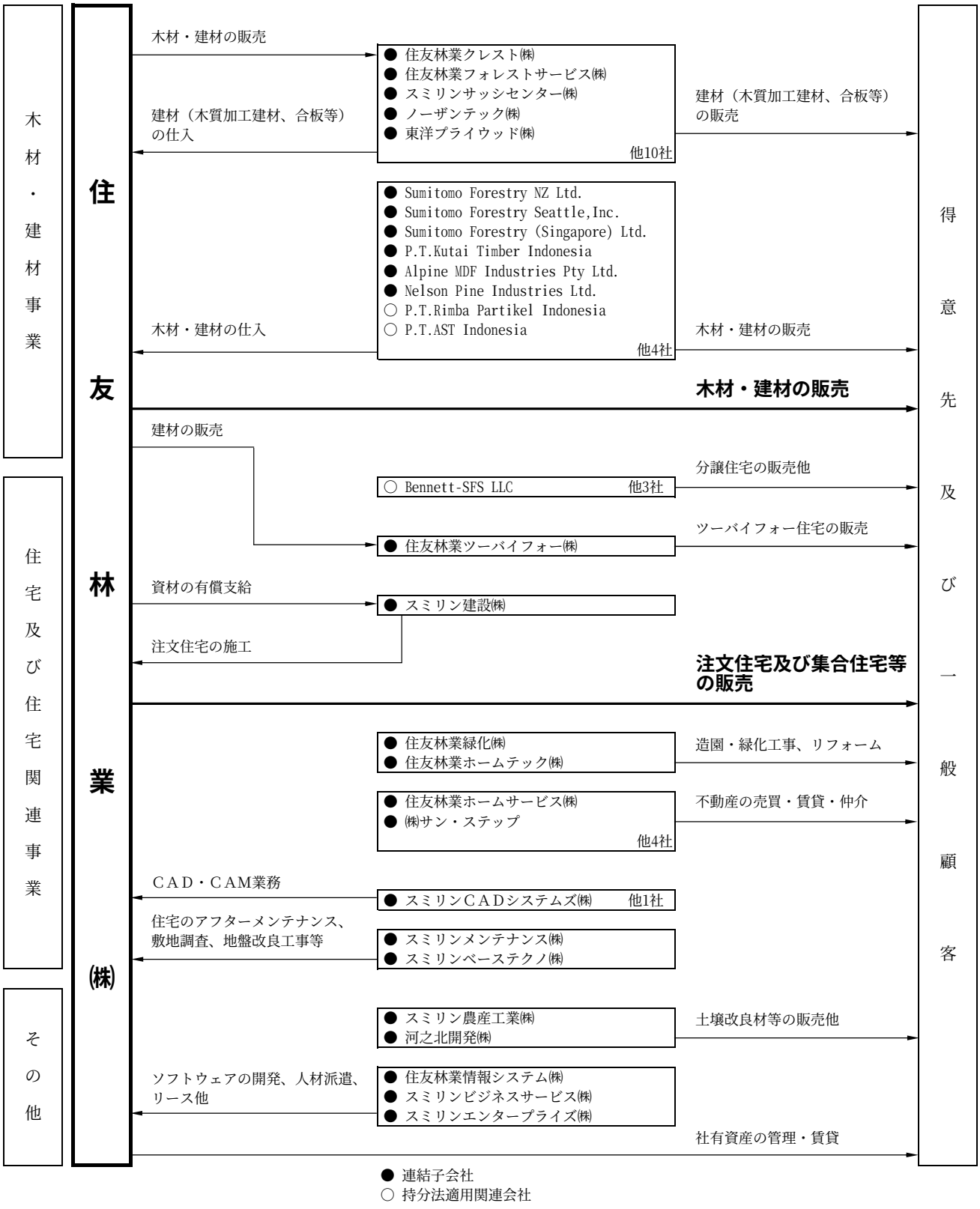
なお、次の3部門は事業の種類別セグメント情報の区分と同一であります。

木材・建材事業	事業内容	スギ・ヒノキ・トドマツ等の植林・育成・収穫、山林管理業務、木材（一般用材・チップ・パルプ材・プレカット材・集成材等）・建材（木質加工建材・窯業建材・金属建材・住宅機器・合板・繊維板等）の国内及び海外における仕入・製造・加工・販売
	主な関係会社	住友林業クレスト㈱、住友林業フォレストサービス㈱、スミリンサッシセンター㈱、ノーザンテック㈱、東洋プライウッド㈱、Sumitomo Forestry NZ Ltd.、Sumitomo Forestry Seattle, Inc.、Sumitomo Forestry (Singapore) Ltd.、P.T.Kutai Timber Indonesia、Alpine MDF Industries Pty Ltd.、Nelson Pine Industries Ltd.、P.T.Rimba Partikel Indonesia、P.T. AST Indonesia
住宅及び住宅関連事業	事業内容	木造軸組住宅・ツーバイフォー住宅・集合住宅等の建築請負・設計・施工・監理、分譲住宅の施工・販売、不動産の売買・賃貸・仲介、造園・緑化工事の請負・設計・施工・監理、一般住宅・マンションのリフォーム、ＣＡＤ・ＣＡＭ業務受託、住宅のアフターメンテナンス、敷地調査、地盤改良工事、インテリア商品の販売
	主な関係会社	住友林業ツーバイフォー㈱、住友林業ホームサービス㈱、住友林業緑化㈱、住友林業ホームテック㈱、スミリンＣＡＤシステムズ㈱、スミリン建設㈱、スミリンベーステクノ㈱、スミリンメンテナンス㈱、㈱サン・ステップ、Bennett-SFS LLC
その他	事業内容	社有資産の管理・賃貸、 ソフトウェアの開発・販売、 土壌改良材・園芸用品の製造・販売、人材派遣、リース業、ゴルフ場の経営
	主な関係会社	住友林業情報システム㈱、スミリン農産工業㈱、スミリンビジネスサービス㈱、スミリンエンタープライズ㈱、河之北開発㈱

（注）スミリン建設㈱は、平成18年10月1日付で「住友林業ホームエンジニアリング㈱」と商号変更しております。

【事業系統図】

以上述べた事項を事業系統図によって示すと次のとおりであります。



経営方針

１．経営の基本方針

当社グループは、「再生可能で人と地球にやさしい自然素材である『木』を活かし、『住生活』に関するあらゆるサービスを通じて、豊かな社会の実現に貢献する」ことを経営理念に掲げ、この理念のもと、株主価値の最大化を目指すことを経営の基本方針としております。

この実現のため、当社グループは、公正、信用を重視し、積極かつ堅実な経営を行うことを旨とする「住友精神」の遵守、一人一人が高い士気と誇りを持ち、自由闊達な企業風土をつくる「人間尊重」、事業を通じ、自然環境、生活環境に貢献する「環境保全」、お客様満足を最優先に行動する「お客様最優先」の４つを行動指針として、経営の効率化、収益性の向上を重視した事業展開を行っております。

また、情報開示を積極化し経営の透明性を高めることで、経営品質の向上を図っております。

２．利益配分に関する基本方針

利益配分に関しましては、株主への利益還元を最重要課題の一つと認識し、これを安定的、継続的に実施することを基本方針としております。今後につきましても、当面、自己資本当期純利益率の向上に注力するとともに、経営基盤、財務体質の強化等を勘案しつつ、利益の状況に応じた適正な水準での利益還元の維持・向上を図ってまいります。

また、内部留保金につきましては、長期的な視野に立った山林経営や海外プロジェクト、ＩＴ（情報技術）等への効果的な投資、木材・建材事業の強化・拡充、住宅販売網の整備や新規事業の推進並びに商品開発等の研究開発活動に有効に活用していく所存であります。

なお、配当に関しましては、従来通り、原則中間･期末の年間２回配当を継続する方針としております。

３．投資単位の引き下げに関する考え方及び方針

当社と致しましては、投資家層の拡大、株式の流動性向上を資本政策上の重要課題と認識し、投資単位の引き下げはそのための有用な手段の一つと考えますが、その実施につきましては、費用及び効果を鑑みた上で、株式市場の趨勢、当社株式の株価や出来高推移を見守りながら対処したいと考えております。

４．中長期的な経営戦略と対処すべき課題

当社グループは、「木」を活用した総合住関連事業を営む企業グループを目指し、中核事業である「新築住宅事業」と「木材建材流通事業」に加え、住宅リフォーム事業、不動産流通事業等の「住宅ストック事業」、海外での木質建材の製造・販売を中心とする「海外事業」、及びアパート・マンション等の建築請負、賃貸管理事業等の「集合住宅事業」を早期に収益の柱に育成することを、中長期的な目標に掲げており、今後もその達成に向けた経営戦略を着実に展開してまいります。

住宅及び住宅関連事業におきましては、お客様の豊かな住生活を創造するという社会的使命を果たす

ため、お客様最優先の徹底、地域密着営業の推進、商品開発の強化、社員教育の充実、ＩＴ活用による住宅建築の生産改革などの諸施策を実施してまいります。また、リフォームや不動産流通などの住宅ストック関連ビジネスを拡大し、グループ全体としてより充実した住関連サービスを総合的に提供していくための事業展開を図ります。

木材・建材事業におきましては、国内市場における業界トップの実力、収益力の確立を目指すとともに、海外での木材・建材商品の生産体制の増強、海外マーケットの開拓を推進してまいります。

当社グループは、創業以来 300 余年にわたり森と木を育て自然と共生してきた企業グループとして、企業文化として培ってきた「サステナブル」（持続可能）の考え方に基づいて、環境及び社会と調和のとれた質の高い事業活動を目指します。

５．親会社等に関する事項

該当事項はありません。

経営成績及び財政状態

１．経営成績

(1) 当期の概況

当上半期のわが国経済は、企業収益が高水準で持続したことから、雇用情勢の改善、個人消費の増加傾向が見られ、景気は緩やかな拡大を続けました。

住宅業界におきましては、雇用者所得の緩やかな増加、金利の先高感、大都市圏における地価の上昇ならびに一次取得者層の旺盛な購買意欲を背景に新設住宅着工戸数は66万4千戸(前年同期比3.8%増）となり、当社住宅事業と関連の深い持家の着工戸数は19万7千戸（同3.4%増）となりました。木材・建材業界におきましては、新設住宅着工戸数の増加に伴う需要拡大により商品価格が上昇した一方で、原材料価格・製造コストに影響を及ぼす原木や原油の価格高騰が依然として継続する環境となりました。

このような事業環境のもと、当社グループは、事業拡大に向けてこれまで実施してきた投資効果を発揮することにより、競争力強化、収益力向上を図り、連結経営強化に取り組みました。

以上の結果、連結売上高は、4,219億89百万円（前年同期比24.7%増）、連結経常利益54億37百万円（同134.0%増）、連結中間純利益は28億74百万円（同103.5%増）となりました。

事業の種類別セグメントの状況

＜木材・建材事業＞

・木材・建材流通事業

木材・建材の流通事業におきましては、業界内の競争が激化し再編が加速する中、収益基盤の拡大を目的として、平成17年10月に新規連結子会社となった安宅建材株式会社と平成18年4月に合併したこともあり大幅増収となりました。従来以上に質の高いサービスの提供と収益力強化を図るとともに、取扱商品の拡大をはじめとする販売力強化に注力しました。また従来から仕入先並びに販売先との関係強化を行なっていたことによる主要取扱商品の取引量拡大、及び当上半期の住宅需要増加により市場が活況を呈したことで、相乗的に収益性を改善させました。

・建材製造事業

当社グループは、国内、海外において建材製造事業を行なっております。生産性の向上による事業体質の改善に取り組んだものの、原材料コストの高騰に伴う製造原価の上昇を販売価格に転嫁しきれず、総じて業績は低調に推移しました。

以上の結果、木材・建材事業では、売上高は2,393億52百万円（前年同期比51.9%増）、営業利益は32億89百万円（同285.4%増）となりました。

＜住宅及び住宅関連事業＞

・木造軸組戸建住宅事業

木造軸組工法による新築住宅事業におきましては、生産コストの削減と受注内容の改善を継続しつつ、前期に行なった首都圏に引き続き、競争力強化に向けた都市部の組織改正に取り組み、迅速かつきめ細かな営業対応を行える体制としました。前期に住宅事業 30 周年の集大成として発売した商品「MyForest(ﾏｲﾌｫﾚｽﾄ)」が中高級志向のお客様の支持を頂き、受注単価の上昇につながりました。また営業ツールの充実を図り、提案力を強化することで、より幅広いお客様の要望に応えられるようになりました。

これらの結果、受注は期初上半期計画を上回り 4,962 棟（前年同期比 2.4%増）、1,552 億 53 百万円（同 6.7%増）、完工につきましては、4,155 棟（同 3.4%減）、1,272 億 73 百万円（同 0.1%増）となりました。

・その他戸建住宅事業

ツーバイフォー工法による新築住宅事業におきましては、外断熱工法等を特徴とした中高級仕様商品を軸とした戦略のもと、展示場を建替え、営業体制の整備を進めました。また 3 月に発売した「Early Bird(アーリーバード)」が好評を得ています。これらの結果、受注は 197 棟（前年同期比 3.7%増）、65 億円 34 百万円（同 15.2%増）、完工につきましては、135 棟（同 8.0%増）、43 億 70 百万円（同 16.5%増）となりました。

また米国ワシントン州シアトル近郊にて行なっております分譲住宅事業につきましては、米国住宅市場の減速感が出ておりますが、着実に事業運営を進めております。

・集合住宅事業

集合住宅事業におきましては、お客様のニーズへのきめ細かな対応と、提案のスピードアップを両立できるセミオーダータイプの木造軸組アパート「Succeed M-trust inno（イノ）」を発売するなど、アパート部門の強化を図りました。

これらの結果、受注は 730 戸（前年同期比 11.5%増）、67 億 83 百万円（同 1.6%増）、完工につきましては、249 戸（同 18.0%増）、26 億 6 百万円（同 20.9%増）となりました。

・住宅関連事業

次世代の中核事業として、リフォーム事業及び不動産流通事業からなる住宅ストック事業に取り組んでおります。リフォーム事業を担う住友林業ホームテック株式会社におきましては、木造注文住宅事業で培った技術力を活かした独自の耐震リフォームなどの提案を行ないました。不動産流通事業を担う住友林業ホームサービス株式会社におきましては、店舗の増強など営業網の強化を行ないました。

以上の結果、住宅及び住宅関連事業では、売上高は 1,806 億 77 百万円（前年同期比 0.9%増）、営業利益は 34 億 50 百万円（同 62.5%増）となりました。

＜その他事業＞

当社グループは、上記事業のほか、グループ内各社を対象とした情報システム開発、リース業、住宅顧客等を対象とする損害保険代理店業務等の各種サービス事業、農園芸用培土の製造販売事業等を行なっております。

その他事業では、売上高は19億59百万円（前年同期比16.3%増）、営業利益は4億55百万円（同0.8%増）となりました。

(2) 通期の見通し

今後の経済動向につきましては、原材料価格の高騰等が懸念されるものの、景気は緩やかな拡大を続けると見込まれ、住宅業界におきましても全体としては緩やかな増加傾向が継続すると思われます。

このような事業環境のもと、お客様に評価いただける安全かつ安心な商品を安定して提供できる体制を整備し、引き続き経費管理を徹底するとともに事業拡大と収益力向上のため積極的な経営を行なってまいります。

木材・建材事業におきましては、流通事業では実需に基づく仕入を行い極力在庫の負担を避けることにより、事業環境の変化に迅速に対応していきます。また、建材製造事業では既存設備の稼働率を高めつつ、販売強化とともに新価格体系への移行により、収益を確保していきます。

住宅事業におきましては、主力の木造軸組戸建住宅事業では、昨年度から取り組んできた受注体制の強化策が現場に浸透し営業力が回復したことに加え、支店の再編をはじめとする組織の見直し等できめ細かな営業体制を構築したことにより、今後更なる受注の拡大に努めます。

なお、住宅業界では昨年度来、アスベスト問題・構造計算偽装問題など、業界の信頼を失墜させ、お客様をはじめとしたステークホルダーの皆様に不安・不信を与える問題が発生いたしました。このような事態を踏まえ、将来にわたって不断に取り組むべき経営課題として、業務が適正に運営されることを確保するための体制を、より一層整備してまいります。

通期の業績につきましては、売上高は8,910億円（前期比12.6%増）、経常利益は170億円（同1.2%増）、当期純利益は90億円（同17.0%減）を予想しております。

２．財政状態

(1)　連結財政状況

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間末	当中間連結会計期間末	前連結会計年度末
総資産	411,783	483,734	464,193
負債	253,487	309,475	285,862
純資産	157,746	174,259	175,206

当中間連結会計期間末における総資産は、主に売上増加に伴い受取手形及び売掛金等の売上債権が増加し、工事中物件の増加により未成工事支出金が増加したことにより、前連結会計年度末比で 195 億 41 百万円増加し、4,837 億 34 百万円となりました。負債は、主に工事中物件の増加により未成工事受入金が増加したことにより前連結会計年度末比で 236 億 12 百万円増加し、3,094 億 75 百万円となりました。なお、純資産は 1,742 億 59 百万円、自己資本比率は 35.8%となりました。

(2)　連結キャッシュ・フローの状況

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間	当中間連結会計期間	前連結会計年度
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,399	1,531	16,626
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,416	△1,865	△8,998
財務活動によるキャッシュ・フロー	△5,909	2,514	△14,039
現金及び現金同等物に係る換算差額	38	△49	111
現金及び現金同等物の増減額	△7,888	2,130	△6,300
現金及び現金同等物の期首残高	55,928	49,628	55,928
現金及び現金同等物の中間期末（期末）残高	48,040	51,759	49,628

当中間連結会計期間末の連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末より 21 億 30 百万円増加して 517 億 59 百万円となりました。営業活動により 15 億 31 百万円の資金増となりましたが、投資活動で 18 億 65 百万円の資金を使用し、財務活動で 25 億 14 百万円の資金を調達いたしました。

各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

①　営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前当期利益が前中間連結会計期間比で倍増し、また法人税等支払額が納付から還付に転じました。一方、増収により、受取手形や売掛金等の売上債権及び商品が前期末と比較し増加したこと、また工事中物件の増加に伴い、たな卸資産が増加したことに加え、決算日が休日であったため、手形の期落日が下半期に繰越されたこと等が資金減少要因となりました。その結果、前中間連結会計期間と比べ 8 億 68 百万円減少して、15 億 31 百万円となりました。

②　投資活動によるキャッシュ・フロー

投資有価証券の売却による収入がありましたが、海外子会社工場での設備投資や国内子会社の工場移転等の支出により、投資活動により使用した資金は、前中間連結会計期間と比べ 25 億 51 百万円減少して、18 億 65 百万円となりました。

③ 財務活動によるキャッシュ・フロー

子会社における有利子負債の返済及び、配当金の支払等の一方、親会社及び子会社における資金調達により、前中間連結会計期間の 59 億 9 百万円の支出から一転し、25 億 14 百万円の収入となりました。

尚、当企業集団のキャッシュ・フロー指標のトレンドは以下のとおりです。

	平成 15 年 3 月期	平成 16 年 3 月期	平成 17 年 3 月期	平成 18 年 3 月期	平成 18 年 9 月中間期
自己資本比率(%)	36.3	39.6	41.1	37.7	35.8
時価ベースの自己資本比率(%)	23.7	57.1	50.2	45.2	45.2
債務償還年数（年）	0.8	0.8	2.3	1.3	―
インタレスト・カバレッジ・レシオ	52.1	44.1	9.0	16.5	2.5

（注）自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

債務償還年数：有利子負債／営業キャッシュ・フロー（中間期は記載しておりません）

インタレスト・カバレッジ・レシオ：営業キャッシュ・フロー／利払い

※ いずれも連結ベースの財務数値により計算しております。

※ 株式時価総額は、期末株価終値×期末発行済株式数により算出しております。

※ 営業キャッシュ・フローは連結キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを使用しております。有利子負債は連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としております。また、利払いについては、連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。

３．事業等のリスク

(1)住宅市場の動向

当社グループの業績は、とりわけ住宅市場の動向に大きく依存しております。そのため、以下のような状況の変化により、住宅受注が大幅に減少する事態となった場合、当社グループの業績に悪影響を与える可能性があります。

①金利変動

金利変動とりわけ長期金利の上昇は、ローンによる支払いを行うケースが多い戸建住宅顧客や、土地活用のために集合住宅等の建築物を建てる顧客にとって、支払総額の増加をもたらすため需要を減退させる可能性があります。但し、金利の先高観は、金利上昇に伴うローンによる支払い総額の上昇を回避するための駆け込み需要を喚起し、一時的な住宅需要を増加させる可能性があります。

②地価の変動

地価の上昇は、土地を所有していない顧客層の住宅購買意欲を冷え込ませる可能性があります。一方、地価の下落は土地を所有している層に対して資産デフレをもたらし、建替え需要を減退させる可能性があります。そのため、地価の大幅な上昇や下落は、ともに当社グループの業績に悪影響を与える可能性があります。

③税制の変更

現行の住宅ローン減税が、今後縮小されたり、廃止されたりすることがあれば、住宅需要の減退を招き、当社グループの業績に悪影響を与える可能性があります。また将来、消費税の税率が引き上げられ、そのまま住宅の購入にも適用される場合は、同様に住宅需要の大幅な減退を招き、当社グループの業績に悪影響を与えるものと考えられます。

(2)法的規制の変更

住宅事業を取り巻く法規制には、建築基準法、建設業法、宅建業法、都市計画法、国土利用計画法、住宅品質確保促進法、廃掃法（廃棄物の処理及び清掃に関する法律）、個人情報保護法など様々な規制があります。これら法規制は、住宅事業を行うに当り、商品内容や施工方法、営業方法等に多大な影響を及ぼすため、関係する法規制の改廃や新たな法規制の設定が行われた場合、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

(3)木材・建材及びその他原材料市況

木材・建材価格の低下は、木材・建材流通事業において売上高の減少をもたらします。一方、木材・建材価格の上昇は、その他の住宅資材価格と同様、住宅部門において資材の仕入価格の上昇を招くため、木材･建材価格の急激な変動は、当社グループの業績に悪影響を与える可能性があります。また、

原油等、木材・建材以外の直接・間接的な原材料市況の変動も、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

(4)為替レートの変動

外貨建て輸入に際しては、為替予約を行うなど、為替リスクを低減するための措置をとっておりますが、為替変動により一時的にコストが上下する場合があります。一方、海外で木質建材等を製造販売する関係会社においては、輸出先国の通貨に対して生産国の通貨が高くなる場合は、業績に悪影響を及ぼします。

(5)品質保証

当社グループは、取扱商品および住宅等の品質管理には万全を期しておりますが、予期せぬ事情により重大な品質問題等が発生した場合には、業績に影響を及ぼす可能性があります。

(6)海外での事業活動

当社グループは、海外で事業活動を展開している他、海外商品の取扱等、海外の取引先と多くの取引を行なっております。従って、日本のみならず関係各国の法律や規制、経済・社会情勢および消費者動向等の変動が、業績に影響を及ぼす可能性があります。

(7)退職給付債務

国内株式市場の大幅な変動等、当社グループの年金資産の運用環境が大幅に悪化した場合や数理計算上の前提条件を変更する必要性が生じた場合、追加的な年金資産の積み増しを要する、あるいは年金に関する費用が増加する、等の可能性があり、当社グループの経営成績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(8)自然災害

大規模な地震、風水害等の自然災害が発生した場合には、保有設備の復旧活動、住宅の引渡済物件に対する安全確認、及び建設請負物件等の完工引渡の遅延等により多額の費用が発生し、業績に影響を及ぼす可能性があります。

(9)情報セキュリティ

当社グループは、膨大なお客様に関する情報を保有しており、情報管理に関する規程及び体制の整

備や、役職員等に対する教育の徹底等により、お客様に関する情報の管理には万全を期しております。しかしながら、悪意のある第三者によるコンピュータへの侵入や盗難、役職員等及び委託先の人為的ミス、事故等によりお客様に関する情報が外部に漏洩した場合、お客様からの損害賠償請求やお客様及びマーケット等からの信頼失墜等により、業績に影響を及ぼす可能性があります。

(10)環境関連

当社グループは「環境保全」を経営理念の４つの行動指針の中に掲げ、経営の最重要事項の一つとして取り組んでおります。しかし、国内および海外における環境に関する法的規制等の変化や災害等による重大な環境問題等が発生した場合には、罰金、補償金、および問題解決のための対策コスト等が必要となり、業績に影響を及ぼす可能性があります。

※文中における将来に関する事項は、本資料作成日現在において、当社グループが判断したものであります。

中間連結貸借対照表

（ 資産の部 ）

（単位：百万円）

科　　目	前中間連結会計期間末 （　H17.9.30　）	当中間連結会計期間末 （　H18.9.30　）	前連結会計年度 （　H18.3.31　）	増　減 H18.3.31～H18.9.30
資 産 の 部				
Ⅰ 流 動 資 産	（ 267,617 ）	（ 330,088 ）	（ 300,431 ）	（ 29,657 ）
1．現金及び預金	37,112	42,831	44,720	△1,890
2．受取手形及び売掛金	94,174	152,106	134,880	17,226
3．完成工事未収入金	3,434	5,529	3,379	2,150
4．有価証券	11,000	8,999	5,000	3,999
5．商品	21,388	25,060	22,413	2,647
6．販売用不動産	11,391	10,450	10,071	379
7．未成工事支出金	22,850	22,796	15,628	7,167
8．繰延税金資産	8,348	6,209	7,597	△1,388
9．短期貸付金	9,395	5,589	10,478	△4,889
10. 未収入金	45,526	46,549	40,747	5,802
11. その他	3,645	4,796	6,431	△1,636
12. 貸倒引当金	△646	△824	△913	90
Ⅱ 固 定 資 産	（ 144,167 ）	（ 153,646 ）	（ 163,761 ）	（ △10,116 ）
1．有形固定資産	（ 72,066 ）	（ 71,677 ）	（ 73,933 ）	（ △2,256 ）
（1）建物及び構築物	18,024	19,170	18,969	201
（2）機械装置及び運搬具	17,022	17,119	17,852	△733
（3）土地	21,077	20,966	19,973	993
（4）建設仮勘定	3,280	1,992	4,426	△2,434
（5）その他	12,664	12,430	12,713	△283
2．無形固定資産	（ 7,122 ）	（ 6,525 ）	（ 7,107 ）	（ △582 ）
（1）のれん	-	1,215	-	1,215
（2）連結調整勘定	1,822	-	1,532	△1,532
（3）その他	5,300	5,310	5,575	△265
3．投資その他の資産	（ 64,979 ）	（ 75,443 ）	（ 82,722 ）	（ △7,278 ）
（1）投資有価証券	54,344	64,182	71,413	△7,231
（2）長期貸付金	750	457	380	78
（3）繰延税金資産	1,244	1,233	1,242	△10
（4）その他	10,218	11,438	11,784	△346
（5）貸倒引当金	△1,577	△1,867	△2,097	230
資 産 合 計	411,783	483,734	464,193	19,541

中間連結貸借対照表

（ 負債及び純資産の部）

（単位：百万円）

科　　目	前中間連結会計期間末 (H17.9.30)	当中間連結会計期間末 (H18.9.30)	前連結会計年度 (H18.3.31)	増　減 H18.3.31～H18.9.30
負 債 の 部				
Ⅰ 流 動 負 債	(207,807)	(258,290)	(232,394)	(25,896)
1．支払手形及び買掛金	66,200	103,989	93,782	10,208
2．工事未払金	57,017	59,851	60,242	△391
3．短期借入金	8,604	14,501	13,159	1,342
4．１年以内に償還予定の社債	60	60	60	-
5．未払法人税等	2,207	1,795	1,596	198
6．未成工事受入金	45,930	52,253	36,509	15,744
7．繰延税金負債	0	1	0	0
8．賞与引当金	7,605	8,084	8,078	6
9．完成工事補償引当金	1,079	1,312	1,323	△11
10. 事業整理損失引当金	1,360	485	844	△359
11. その他	17,746	15,959	16,799	△840
Ⅱ 固 定 負 債	(45,680)	(51,185)	(53,469)	(△2,284)
1．社債	190	130	160	△30
2．長期借入金	9,019	10,016	8,688	1,328
3．繰延税金負債	6,088	12,611	15,136	△2,524
4．退職給付引当金	17,457	15,202	15,875	△674
5．役員退職慰労引当金	276	339	382	△43
6．その他	12,650	12,887	13,228	△341
負 債 合 計	253,487	309,475	285,862	23,612
少数株主持分				
少数株主持分	(551)	(-)	(3,124)	(-)
資 本 の 部				
Ⅰ 資 本 金	(27,672)	(-)	(27,672)	(-)
Ⅱ 資 本 剰 余 金	(25,654)	(-)	(25,655)	(-)
Ⅲ 利 益 剰 余 金	(91,033)	(-)	(99,319)	(-)
Ⅳ その他有価証券評価差額金	(13,649)	(-)	(22,125)	(-)
Ⅴ 為替換算調整勘定	(299)	(-)	(1,052)	(-)
Ⅵ 自 己 株 式	(△561)	(-)	(△617)	(-)
資 本 合 計	157,746	-	175,206	-
負債、少数株主持分及び資本合計	411,783	-	464,193	-
純 資 産 の 部				
Ⅰ 株 主 資 本	(-)	(155,436)	(-)	(-)
1．資本金	-	27,672	-	-
2．資本剰余金	-	26,881	-	-
3．利益剰余金	-	100,991	-	-
4．自己株式	-	△108	-	-
Ⅱ 評価・換算差額等	(-)	(17,842)	(-)	(-)
1．その他有価証券評価差額金	-	18,252	-	-
2．繰延ヘッジ損益	-	47	-	-
3．為替換算調整勘定	-	△457	-	-
Ⅲ 少数株主持分	(-)	(981)	(-)	(-)
純 資 産 合 計	-	174,259	-	-
負債及び純資産合計	-	483,734	-	-

中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科　　目	前中間連結会計期間 H17.4.1～H17.9.30	百分比 %	当中間連結会計期間 H18.4.1～H18.9.30	百分比 %	増減率 %	前連結会計年度 H17.4.1～H18.3.31	百分比 %
Ⅰ 売 上 高	(338,376)	(100.0)	(421,989)	(100.0)	(24.7)	(791,128)	(100.0)
1．売上高	181,424		260,761			439,516	
2．完成工事高	156,952		161,228			351,612	
Ⅱ 売 上 原 価	(281,871)	(83.3)	(357,646)	(84.8)	(26.9)	(663,275)	(83.8)
1．売上原価	168,486		241,403			408,124	
2．完成工事原価	113,384		116,243			255,151	
売 上 総 利 益	56,506	16.7	64,342	15.2	13.9	127,853	16.2
Ⅲ 販売費及び一般管理費	55,213	16.3	59,463	14.0	7.7	112,407	14.2
営 業 利 益	1,292	0.4	4,879	1.2	277.5	15,446	2.0
Ⅳ 営 業 外 収 益	(1,880)	(0.6)	(1,912)	(0.4)	(1.7)	(3,750)	(0.4)
1．受取利息	83		252			260	
2．仕入割引	306		390			716	
3．受取配当金	309		402			521	
4．持分法による投資利益	144		99			327	
5．保険金収入	380		-			419	
6．その他	658		770			1,506	
Ⅴ 営 業 外 費 用	(849)	(0.3)	(1,354)	(0.3)	(59.6)	(2,396)	(0.3)
1．支払利息	473		610			1,094	
2．売上割引	156		349			478	
3．販売用不動産等評価損	10		129			19	
4．その他	210		266			805	
経 常 利 益	2,324	0.7	5,437	1.3	134.0	16,800	2.1
Ⅵ 特 別 利 益	(298)	(0.1)	(673)	(0.1)	(125.9)	(363)	(0.0)
1．固定資産売却益	69		403			82	
2．投資有価証券売却益	-		269			53	
3．営業移転利益	229		-			229	
Ⅶ 特 別 損 失	(137)	(0.1)	(468)	(0.1)	(241.7)	(1,128)	(0.1)
1．固定資産売却損	54		-			492	
2．固定資産除却損	67		26			165	
3．投資有価証券評価損	15		2			15	
4．統合関連費用	-		-			455	
5．合併退職給付損失	-		145			-	
6．事業所移転費用	-		295			-	
税金等調整前中間（当期）純利益	2,485	0.7	5,642	1.3	127.1	16,035	2.0
法人税、住民税及び事業税	1,146	0.3	1,177	0.3		2,254	0.3
法人税等調整額	△109	△0.0	1,543	0.3		2,705	0.3
少数株主利益	36	0.0	48	0.0		235	0.0
中間（当期）純利益	1,412	0.4	2,874	0.7	103.5	10,842	1.4

中間連結剰余金計算書

（単位：百万円）

科　　目	前中間連結会計期間 H17.4.1～H17.9.30	当中間連結会計期間 H18.4.1～H18.9.30	前連結会計年度 H17.4.1～H18.3.31
資本剰余金の部			
Ⅰ 資本剰余金期首残高	(25,654)	(-)	(25,654)
Ⅱ 資本剰余金増加高	(1)	(-)	(1)
自己株式処分差益	1	-	1
Ⅲ 資本剰余金中間期末（期末）残高	(25,654)	(-)	(25,655)
利益剰余金の部			
Ⅰ 利益剰余金期首残高	(90,807)	(-)	(90,807)
Ⅱ 利益剰余金増加高	(1,412)	(-)	(10,842)
中間（当期）純利益	1,412	-	10,842
Ⅲ 利益剰余金減少高	(1,187)	(-)	(2,330)
１．配当金	1,144	-	2,287
２．取締役賞与	43	-	43
Ⅳ 利益剰余金中間期末（期末）残高	(91,033)	(-)	(99,319)

中間連結株主資本等変動計算書

当中間連結会計期間（自平成18年4月1日　至平成18年9月30日）　（単位：百万円）

	株主資本					評価・換算差額等			少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定		
平成18年3月31日残高	27,672	25,655	99,319	△617	152,029	22,125	-	1,052	3,124	178,330
中間連結会計期間中の変動額										
剰余金の配当(注)			△1,143		△1,143					△1,143
役員賞与(注)			△59		△59					△59
中間純利益			2,874		2,874					2,874
自己株式の取得				△50	△50					△50
自己株式の処分		0		2	2					2
企業結合による増加又は減少		1,226		557	1,783					1,783
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額（純額）						△3,873	47	△1,509	△2,143	△7,478
中間連結会計期間中の変動額合計	-	1,226	1,672	509	3,407	△3,873	47	△1,509	△2,143	△4,072
平成18年9月30日残高	27,672	26,881	100,991	△108	155,436	18,252	47	△457	981	174,259

(注)平成18年6月の定時株主総会における利益処分項目であります。

中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

科　　目	前中間連結会計期間 H17.4.1 ～ H17.9.30	当中間連結会計期間 H18.4.1 ～ H18.9.30	前連結会計年度 H17.4.1 ～ H18.3.31
Ⅰ　営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前中間（当期）純利益	2,485	5,642	16,035
減価償却費	3,167	3,170	6,403
連結調整勘定償却額	225	-	566
のれん償却額	-	288	-
貸倒引当金の増減額	△43	△320	15
賞与引当金の増減額	△181	5	46
完成工事補償引当金の増減額	12	△11	256
事業整理損失引当金の増減額	△507	△359	△1,023
退職給付引当金の増減額	1,148	△671	△1,044
役員退職慰労引当金の増減額	△625	△43	△622
受取利息及び受取配当金	△392	△653	△781
支払利息	473	610	1,094
持分法による投資損益	△144	△99	△327
有価証券・投資有価証券評価損及び売却損益	15	△267	△37
固定資産売却損益及び除却損	52	△378	575
営業移転利益	△229	-	△229
売上債権の増減額	△841	△7,779	1,165
たな卸資産の増減額	△8,490	△10,576	1,590
その他流動資産の増減額	△9,490	△6,080	△5,051
仕入債務の増減額	6,703	2,410	2,929
前受金、工事前受金及び未成工事受入金の増減額	12,830	16,258	2,067
未払消費税等の増減額	△354	△754	8
その他流動負債の増減額	△224	△174	491
その他	89	11	361
小計	5,680	232	24,487
利息及び配当金の受取額	532	949	1,008
利息の支払額	△461	△618	△1,008
法人税等の支払額（△）又は還付額	△3,352	968	△7,861
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,399	1,531	16,626
Ⅱ　投資活動によるキャッシュ・フロー			
定期預金の預入による支出	△18	△25	△45
定期預金の払戻による収入	65	46	294
有価証券の売却による収入	247	-	247
短期貸付金純増減額	755	△277	801
有形固定資産の取得による支出	△6,374	△4,683	△12,554
有形固定資産の売却による収入	2,970	3,009	7,496
無形固定資産の取得による支出	△689	△580	△1,872
投資有価証券の取得による支出	△3,024	△621	△3,569
投資有価証券の売却による収入	-	1,284	93
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	-	△1,921
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	1,316	-	1,316
長期貸付けによる支出	△15	△117	△50
長期貸付金の回収による収入	137	40	589
その他の支出	△676	△517	△1,614
その他の収入	891	575	1,791
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,416	△1,865	△8,998
Ⅲ　財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入金純増減額	469	2,076	△5,770
長期借入れによる収入	306	2,750	842
長期借入金の返済による支出	△5,442	△1,034	△6,640
社債の償還による支出	△30	△30	△60
配当金の支払額	△1,144	△1,143	△2,287
少数株主への配当金の支払額	△4	△57	△4
その他の収入	2	2	5
その他の支出	△67	△50	△125
財務活動によるキャッシュ・フロー	△5,909	2,514	△14,039
Ⅳ　現金及び現金同等物に係る換算差額	38	△49	111
Ⅴ　現金及び現金同等物の増減額	△7,888	2,130	△6,300
Ⅵ　現金及び現金同等物の期首残高	55,928	49,628	55,928
Ⅶ　現金及び現金同等物の中間期末（期末）残高	48,040	51,759	49,628

中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

１．連結の範囲に関する事項
連結の範囲に含まれている子会社は 43 社であります。主要な連結子会社名は「企業集団の状況」に記載しているため省略しております。
なお、前連結会計年度に連結子会社でありました東海スミリンベーステクノ㈱及び西日本スミリンベーステクノ㈱は、平成 18 年 4 月 1 日付で同じく連結子会社である東日本スミリンベーステクノ㈱を存続会社として吸収合併し、スミリンベーステクノ㈱へ商号変更したため、連結の範囲から除外しております。また、前連結会計年度に連結子会社でありました安宅建材㈱は、平成 18 年 4 月 1 日付で住友林業㈱と合併しているため当期の連結の範囲より除外しております。さらに、前連結会計年度に連結子会社でありました久原興業㈲は、平成 18 年 6 月 6 日付で清算結了しているため、当期の連結の範囲より除外しております。

２．持分法の適用に関する事項
（１）持分法を適用した関連会社は 7 社（P.T.Rimba Partikel Indonesia、P.T.AST Indonesia、Bennett-SFS LLC 他）であります。
（２）㈱チューオーにつきましては、議決権の 20%以上 50%未満を自己の計算において所有しておりますが、実質的な影響力を及ぼしていないため、関連会社としておりません。
（３）持分法適用会社のうち、中間決算日が中間連結決算日と異なる会社については、各社の中間会計期間に係る財務諸表を使用しております。

３．連結子会社の中間決算日等に関する事項
連結子会社である第一産商㈱、㈱ニヘイの 2 社の中間決算日は 9 月 20 日であり、当中間連結会計期間の中間連結財務諸表の作成に当たり、平成 18 年 9 月 20 日現在の財務諸表を使用しております。
上記 2 社を除く国内連結子会社の中間決算日は 9 月 30 日であり、当中間連結会計期間の中間連結財務諸表作成に当たり、平成 18 年 9 月 30 日現在の財務諸表を使用しております。また、在外連結子会社の中間決算日は 6 月 30 日であり、平成 18 年 6 月 30 日現在の財務諸表を使用しております。

４．会計処理基準に関する事項
（１）重要な資産の評価基準及び評価方法
（イ）有価証券
満期保有目的債券 … 償却原価法（定額法）
その他有価証券 時価のあるもの … 中間連結会計期間末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）
時価のないもの … 移動平均法による原価法
（ロ）たな卸資産
商品は移動平均法による原価法、販売用不動産及び未成工事支出金は個別法による原価法を採用しております。

（２）重要な減価償却資産の減価償却の方法
（イ）有形固定資産
主として定率法を採用しております。ただし、平成 10 年 4 月 1 日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）については、定額法を採用しております。
（ロ）無形固定資産
定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5 年）に基づく定額法を採用しております。

（３）重要な引当金の計上基準
（イ）貸倒引当金
売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
（ロ）賞与引当金
従業員に対する賞与の支給に備えるため、当中間連結会計期間に負担すべき支給見込額を計上しております。
（ハ）役員賞与引当金
当社および一部の連結子会社は、役員に対する賞与の支給に備えるため、当中間連結会計期間に負担すべき支給見込額を計上することとしております。なお、当中間連結会計期間においては、役員賞与の金額を合理的に見積もることが困難であるため、費用計上しておりません。
（ニ）完成工事補償引当金
完成工事に係る補修費支出に備えるため、過去の実績に将来の見込みを加味した額を計上しております。
（ホ）事業整理損失引当金
事業の整理に伴う損失に備えるため、当該損失見込額を計上しております。
（ヘ）退職給付引当金
従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当中間連結会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。数理計算上の差異は、発生年度に一括処理することとしております。
（ト）役員退職慰労引当金
役員の退職慰労金の支出に備えるため、一部の連結子会社は、内規に基づく当中間連結会計期間末要支給額を計上しております。

（４）重要なリース取引の処理方法
リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

（５）重要なヘッジ会計の方法
（イ）ヘッジ会計の方法
外貨建取引の振当処理をヘッジ対象の貿易取引に適用しております。
（ロ）ヘッジ手段
為替変動リスクに対し、為替予約取引を利用しております。
（ハ）ヘッジ対象
管理規程に定められた方針に基づき、予定取引を含む貿易取引の一部をヘッジの対象としております。
（ニ）ヘッジ有効性評価の方法
為替予約取引については、ヘッジの有効性が高いと認められるため、有効性の評価については省略しております。

（6）その他中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項
消費税等の会計処理方法
消費税及び地方消費税の会計処理については、税抜方式を採用しております。

5．中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲
中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更

1．連結貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準
当中間連結会計期間より「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」（企業会計基準委員会　平成17年12月9日　企業会計基準第5号）及び「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等の適用指針」（企業会計基準委員会　平成17年12月9日　企業会計基準適用指針第8号）を適用しております。これによる損益への影響はありません。従来の「資本の部」の合計に相当する金額は173,231百万円であります。なお、中間連結財務諸表規則の改正により、当中間連結会計期間における中間連結貸借対照表の純資産の部については、改正後の中間連結財務諸表規則により作成しております。

2．役員賞与に関する会計基準
当中間連結会計期間より「役員賞与に関する会計基準」（企業会計基準委員会　平成17年11月29日　企業会計基準第4号）を適用しております。なお、当中間連結会計期間の損益に与える影響はありません。

3．企業結合に係る会計基準
当中間連結会計期間より「企業結合に係る会計基準」（企業会計審議会　平成15年10月31日）及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準委員会　平成17年12月27日　企業会計基準適用指針第10号）を適用しております。

注記事項

（中間連結貸借対照表関係）

前中間連結会計期間末 （ 平成17年9月30日 ）	当中間連結会計期間末 （ 平成18年9月30日 ）	前連結会計年度 （ 平成18年3月31日 ）
1．有形固定資産の減価償却累計額 56,059 百万円	1．有形固定資産の減価償却累計額 56,436 百万円	1．有形固定資産の減価償却累計額 58,538 百万円
2．手形割引高及び裏書譲渡高 受取手形裏書譲渡高　56 百万円	2．手形割引高及び裏書譲渡高 受取手形割引高　241 百万円	2．手形割引高及び裏書譲渡高 受取手形割引高　328 百万円 受取手形裏書譲渡高　35
3．保証債務　14,655 百万円	3．保証債務　16,536 百万円	3．保証債務　20,880 百万円
4．―――――	4．中間連結会計期間末日満期手形 中間連結会計期間末日満期手形の会計処理は、手形交換日をもって決済処理しております。なお、当中間連結会計期間の末日は金融機関の休日であったため、次の中間連結会計期間末日満期手形が中間連結会計期間末残高に含まれております。 受取手形　9,535 百万円 支払手形　5,294 百万円	4．―――――

（中間連結株主資本等変動計算書関係）

当中間連結会計期間（自平成18年4月1日　至平成18年9月30日）

１．発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	前連結会計年度末	増加	減少	当中間連結会計期間末
普通株式（株）	176,603,881	806,358	-	177,410,239

（変動事由の概要）

普通株式の増加806,358株は、合併に伴う新株の発行によるものであります。

２．自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	前連結会計年度末	増加	減少	当中間連結会計期間末
普通株式（株）	761,629	44,400	690,148	115,881

（変動事由の概要）

増加・減少数の内訳は、次の通りであります。

単元未満株式の買取による増加	44,400株
単元未満株式の売渡による減少	1,906株
合併に伴う自己株式処分による減少	688,242株

３．配当に関する事項

（１）配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	１株当たり配当額 （円）	基準日	効力発生日
平成18年6月27日 定時株主総会	普通株式	1,143	6.50	平成18年3月31日	平成18年6月28日

（2）基準日が当中間連結会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間会計期間末後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額（百万円）	配当の原資	１株当たり配当額（円）	基準日	効力発生日
平成18年11月6日取締役会	普通株式	1,152	利益剰余金	6.50	平成18年9月30日	平成18年12月8日

（中間連結キャッシュ・フロー計算書関係）

前中間連結会計期間（自平成17年4月1日 至平成17年9月30日）	当中間連結会計期間（自平成18年4月1日 至平成18年9月30日）	前連結会計年度（自平成17年4月1日 至平成18年3月31日）
現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係	現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係	現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係
（平成17年9月30日）	（平成18年9月30日）	（平成18年3月31日）
現金及び預金中間期末残高　37,112 百万円	現金及び預金中間期末残高　42,831 百万円	現金及び預金期末残高　44,720 百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金　△ 72	預入期間が3ヶ月を超える定期預金　△ 71	預入期間が3ヶ月を超える定期預金　△ 92
取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来するコマーシャルペーパー　11,000	取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来するコマーシャルペーパー　8,999	取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来するコマーシャルペーパー　5,000
現金及び現金同等物中間期末残高　48,040	現金及び現金同等物中間期末残高　51,759	現金及び現金同等物期末残高　49,628

（リース取引関係）

ＥＤＩＮＥＴにより開示を行うため記載を省略しております。

セグメント情報

１．事業の種類別セグメント情報

前中間連結会計期間（ 自平成17年4月1日　至平成17年9月30日 ）　（単位：百万円）

	木材・建材事業	住宅及び住宅関連事業	その他	計	消去又は全社	連結
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	157,586	179,106	1,684	338,376	-	338,376
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	8,080	83	4,684	12,847	(12,847)	-
計	165,666	179,190	6,368	351,223	(12,847)	338,376
営業費用	164,813	177,067	5,917	347,796	(10,712)	337,084
営業利益	853	2,123	451	3,427	(2,135)	1,292

当中間連結会計期間（ 自平成18年4月1日　至平成18年9月30日 ）　（単位：百万円）

	木材・建材事業	住宅及び住宅関連事業	その他	計	消去又は全社	連結
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	239,352	180,677	1,959	421,989	-	421,989
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	8,995	296	5,251	14,542	(14,542)	-
計	248,347	180,974	7,210	436,531	(14,542)	421,989
営業費用	245,058	177,523	6,756	429,337	(12,227)	417,109
営業利益	3,289	3,450	455	7,194	(2,314)	4,879

前連結会計年度　（ 自平成17年4月1日　至平成18年3月31日 ）　（単位：百万円）

	木材・建材事業	住宅及び住宅関連事業	その他	計	消去又は全社	連結
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	395,650	392,131	3,347	791,128	-	791,128
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	16,532	1,737	10,202	28,471	(28,471)	-
計	412,182	393,868	13,549	819,600	(28,471)	791,128
営業費用	409,376	377,498	12,708	799,582	(23,900)	775,682
営業利益	2,806	16,370	841	20,018	(4,571)	15,446

（注）1. 事業区分は、事業の種類・性質の類似性等の観点から 3 区分しております。

2. 各事業の主な内容

(1) 木材・建材事業……木材・建材の仕入・製造・販売業等

(2) 住宅及び住宅関連事業……注文住宅・集合住宅等の建築請負業、住宅外構工事の請負業、造園・緑化工事の請負業、不動産の売買・賃貸・仲介業等

(3) その他……リース業、ゴルフ場経営等

3. 営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額は、前中間連結会計期間　1,902百万円、当中間連結会計期間 1,720百万円、前連結会計年度 3,920百万円であり、当社本社の管理部門にかかる費用であります。

２．所在地別セグメント情報

前中間連結会計期間、当中間連結会計期間及び前連結会計年度における本邦の売上高の金額は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、記載を省略しております。

３．海外売上高

前中間連結会計期間、当中間連結会計期間及び前連結会計年度における海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、記載を省略しております。

生産、受注及び販売の状況

(1)受注高及び施工高の状況

当中間連結会計期間における住宅及び住宅関連事業の受注高及び施工高の状況を示すと、次のとおりであります。

当中間連結会計期間 （ 自平成18年4月1日 至平成18年9月30日 ） （単位：百万円）

事業の種類別セグメントの名称	区分	前期繰越高	当中間期受注高	計	当中間期完工高	次期繰越高			当中間期施工高
						手持高	うち施工高		
住宅及び住宅関連事業	注文住宅	8,716 棟 263,381	5,159 棟 161,788	13,875 棟 425,169	4,290 棟 131,643	9,585 棟 293,526	26,747	9.1%	139,552
	集合住宅等	12,816	6,783	19,599	2,606	16,993	1,101	6.5%	3,185
	計	276,197	168,571	444,768	134,249	310,519	27,848	9.0%	142,737

（注）1.「注文住宅」の受注高には、当中間連結会計期間の新規受注に加えて、期中の追加工事によるものが含まれております。

2.「集合住宅等」とは、注文住宅と区分して、集合住宅・ビルその他特殊建物を総称したものであります。棟数表示については一棟ごとに容積、構造、金額が一様でないため、省略しております。

3.「次期繰越高」の施工高は、工事進行程度により手持工事の施工高を推定したものであります。

4.「当中間期施工高」は（当中間期完工高＋次期繰越施工高－前期繰越施工高）に一致します。

5.前年同期比は、「当中間期受注高」が 106.8%、「次期繰越高」が 102.6%、「当中間期施工高」が 101.5%であります。

6.上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

7.上記の金額には、分譲住宅及び住宅関連事業にかかる受注高及び施工高は含まれておりません。

(2)販売実績

当中間連結会計期間における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	当中間連結会計期間 (自平成18年4月 1日　至平成18年9月30日)	
	金額（百万円）	前年同期比（%）
木材・建材事業	239,352	151.9
住宅及び住宅関連事業	180,677	100.9
その他	1,959	116.3
合　計	421,989	124.7

（注）1.セグメント間の取引については相殺消去しております。

2.上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

有価証券関係

Ⅰ　前中間連結会計期間末　（平成17年9月30日）

1. 売買目的有価証券（平成17年9月30日）
該当事項はありません。

2. 満期保有目的の債券で時価のあるもの（平成17年9月30日）

（単位：百万円）

	中間連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 国債・地方債等	289	289	-
(2) 社債	-	-	-
(3) その他	-	-	-
合　　計	289	289	-

3. その他有価証券で時価のあるもの（平成17年9月30日）

（単位：百万円）

	取得原価	中間連結貸借対照表計上額	差額
(1) 株式	24,565	47,471	22,906
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	-	-	-
合　　計	24,565	47,471	22,906

4. 時価のない主な有価証券の内容及び中間連結貸借対照表計上額（平成17年9月30日）

(1) 満期保有目的の債券

コマーシャルペーパー	11,000　百万円

(2) その他有価証券

非上場株式	5,633　百万円

Ⅱ　当中間連結会計期間末　（平成18年9月30日）

1. 売買目的有価証券（平成18年9月30日）
該当事項はありません。

2. 満期保有目的の債券で時価のあるもの（平成18年9月30日）

（単位：百万円）

	中間連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 国債・地方債等	396	396	-
(2) 社債	-	-	-
(3) その他	-	-	-
合　　計	396	396	-

3. その他有価証券で時価のあるもの（平成18年9月30日）

（単位：百万円）

	取得原価	中間連結貸借対照表計上額	差額
(1) 株式	30,085	60,850	30,765
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	-	-	-
合　　計	30,085	60,850	30,765

4. 時価のない主な有価証券の内容及び中間連結貸借対照表計上額（平成18年9月30日）

(1) 満期保有目的の債券

コマーシャルペーパー	8,999 百万円

(2) その他有価証券

非上場株式	1,684 百万円

Ⅲ 前連結会計年度末 （平成18年3月31日）

1. 売買目的有価証券（平成18年3月31日）

該当事項はありません。

2. 満期保有目的の債券で時価のあるもの（平成18年3月31日）

（単位：百万円）

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 国債・地方債等	290	290	-
(2) 社債	-	-	-
(3) その他	-	-	-
合　　計	290	290	-

3. その他有価証券で時価のあるもの（平成18年3月31日）

（単位：百万円）

	取得原価	連結貸借対照表計上額	差額
(1) 株式	26,053	67,679	41,627
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	-	-	-
合　　計	26,053	67,679	41,627

4. 時価のない主な有価証券の内容及び連結貸借対照表計上額（平成18年3月31日）

(1) 満期保有目的の債券

コマーシャルペーパー	5,000 百万円

(2) その他有価証券

非上場株式	2,502 百万円

デリバティブ取引関係

ＥＤＩＮＥＴにより開示を行うため記載を省略しております。